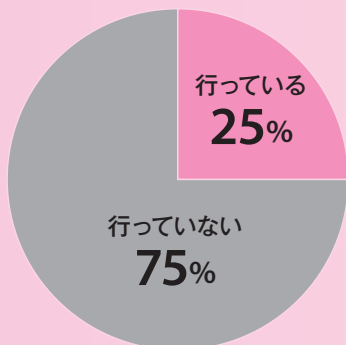


# 生徒・教師・教科が つながらる 探究学習

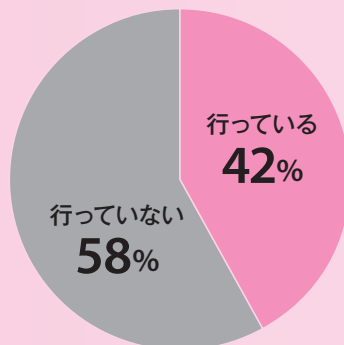
次期学習指導要領では、「理数探究(仮称)」の新設や、「総合的な学習の時間」の名称を「総合的な探究の時間(仮称)」に改め、探究する能力を育むための総仕上げとしてのあり方を明確化することが検討されるなど、探究学習の重要性が一層高まる方向で議論が進んでいる。しかし、現場では、指導・評価のノウハウや時間の不足などの理由から、探究学習は組織的な実践までには行き着いていないようだ。そこで、今号は、今後求められる探究学習について整理した上で、実践事例を通じて、探究学習の具体的な姿と学校全体での推進を実現するヒントを探っていく。

## 探究学習の実施状況

Q. ご担当の教科・科目において探究学習を行っていますか。



Q. 「総合的な学習の時間」で探究学習を行っていますか。



### 行っていない理由

- ◎ 探究学習についての具体的なイメージが把握できていないから。(埼玉県)
- ◎ ノウハウ不足。時間をどのように確保するのかという問題から。(静岡県)
- ◎ 授業時間が少なく、行うことができない。(三重県)
- ◎ 形式、体裁を整えるので精いっぱいであり、内容の深化については、生徒・教師の力量が不十分。(奈良県)
- ◎ 教科内で探究学習の有用性・必要性を共有できていない。また、他クラスの授業進度を気にせざるを得ない状況があるので行けない。(広島県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは、2016年6月にウェブとファクスで実施。回答数は57）

## 本号のテーマ

今後求められる「探究学習」と、  
学校全体でその推進をどう実現していくかを考える

## 今後求められる「探究学習」とは？ なぜ、それが求められるのか？

インタビュー【P.4～9】



関西大学  
総合情報学部 教授  
黒上晴夫

- ◎今後求められる「探究学習」とは、自らの考えや課題を更新し、深めながら、探究のサイクル（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現→振り返り・考えの更新）をらせん状に繰り返していく学びのこと。
- ◎そのような学びが求められる背景には、社会の変化に伴い、そこで求められる資質・能力も変わろうとしていることがある。
- ◎すなわち、様々な事象に対して、何が問題であるのか、課題を設定し、問題解決に向けて様々な知識や情報を取り込みながら分析し、思考を巡らせ、問題の解決に導いていく力が求められており、そうした力を身につけられるのが、今後求められる「探究学習」である。

## 今後求められる「探究学習」を、学校全体でどう実現していくか？

教科の授業における  
探究学習

宮城県  
仙台第三高校  
【P.10～14】

## 同校の「探究学習」の概要

- ◎生徒が自ら学びたいテーマを発見・設定し、主体的に解決する学習活動を「非構成的AL」と定義し、「課題研究」、「総合的な学習の時間」で実施。さらに、教師が学習する分野や教材、活動などを設定し、限定された範囲内で生徒が主体的に学び、探究に必要な力を身につけることを目指す学習活動を「構成的AL」と定義し、各教科の授業で実施。

## 学校全体での「探究学習」が実現したポイント

- ◎まず、全教師が参加するワークショップを実施し、生徒の現状について忌憚なく語り合った。その中で、目指す授業の3つの観点を明確化し、全員で共有した。
- ◎全教師が参加する、授業の研究・開発組織を編成。授業の研究・開発に協働して取り組むことが、有効な教員研修の役割も果たす。

「総合的な学習の時間」に  
おける探究学習

愛知県・私立  
金城学院中学校・高校  
【P.15～19】

## 同校の「探究学習」の概要

- ◎「スキル・ベースド・アプローチ」による探究学習「Dignity」を「総合的な学習の時間」で実施。1年次は探究力を養うための基礎づくり、2年次は研究の実践トレーニング、3年次はその集大成として小論文に取り組む。

## 学校全体での「探究学習」が実現したポイント

- ◎「Dignity」を通して身につけさせたい力を教師間で共有するために、有志が教育活動の基本姿勢を示すグランドデザインを策定。さらに、その後のグランドデザイン改訂時には、多くの教師が議論に参加したことで、当事者意識が向上した。
- ◎「Dignity」の担当者をほぼ全教科から選出したことで、教科横断で情報交換する機会が増え、「Dignity」のノウハウが各教科の授業でも実践され始めた。

キャリア教育における  
探究学習

鳥根県立  
江津高校  
【P.19～22】

## 同校の「探究学習」の概要

- ◎将来の進路を考えるキャリア教育を、探究のステップに沿って実践。進路行事も同様の考え方で再編し、それまで単発的に行われていた個々の取り組みのつながりを意識した指導にした。

## 学校全体での「探究学習」が実現したポイント

- ◎探究学習の取り組みの理念を明確化するために、探究学習の名称を、より生活や地域に根差していることを示す名称に変更。
- ◎キャリア教育の流れをつくる軸として、ベネッセの「進路サポート」を導入。メーン教材の「進路探究ワーク」によって、生徒の活動を可視化できるようにした。

## 次号より随時掲載

「探究学習」開発・推進 追跡レポート  
～語り合い、考え抜き、創り上げる、  
龍谷大学付属平安中学校・高校の新たな「学び」～  
【P.23】

京都府・私立龍谷大学付属平安中学校・高校では、2016年10月より、カリキュラム・マネジメントの観点も踏まえた、自校の生徒にふさわしい探究学習の開発・推進に取り組みます。校内にプロジェクトチームを設置し、17年度開始を目指す同校の取り組みを、本誌では随時レポートしていきます。今号では、探究学習の開発・推進に挑む同校の教師に、その決意と展望を語っていただきました。